

(議長)

次に、西海谷議員の発言を許可致します。

「西海谷議員」

議長。

(議長)

はい、「西海谷議員」。

「西海谷議員」

まず始めに、照井町長におかれましては、いにしえ街道、姥神大神宮渡御祭、さらに江差追分の3つが江差の地域資源として認定評価され、先般、日本で最も美しい村連合の加盟を実現され、また、姥神大神宮渡御祭につきましては、町の文化財指定として、さらに江差町歴史文化基本構想の策定、日本遺産登録に向けた取り組みなど、照井町長の目指す歴史文化による観光振興とまちづくりに対し、敬意を表し、私も意を同じくする議員として、質問に入らせて頂きます。

まずは、江差追分を生かした新たな条例の制定について、ご質問させていただきます。

ご存じのとおり江差町は他に類を見ない優れた有形無形の歴史や文化があります。とりわけ、北海道無形文化財でもある江差追分は江差人の誇りであり、江差の宝だとこのように思っております。とりわけ、北海道無形文化財で、しかし、その江差追分をはじめとする優れた地域資源を、どうまちづくりに生かしていくのか。今年度、町長は、町政執行方針で、江差追分を今後の町づくりの根幹にするべく、新たな条例の制定に向けて、町内追分関係者と議論を交わしていくという方針を示されました。

私は、是非その条例が、更なる江差追分の発展と江差町活性化の原動力になることを期待しております。しかし、条例制定にあたっては、単に条例を作ることに終わるのではなく、改めて全町民がそのことを認識し、どう具体的に進め、どのようにこのまちづくりに生かしていくのか。それこそが最も重要であると考えております。

そこで、庁内議論及び追分関係者との協議がどのように進められ、どのような方向付けをされているのか、お尋ね申し上げます。宜しくお願い致します。

「町長」

議長。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

西海谷議員の1問目、江差追分を生かした新たな条例の制定についてのご質問でございます。

5月中旬に江差追分会事務局長と役場関係課長による江差追分を町民全体に親しんでもらうための新たな条例の制定についての意見交換を実施致しました。その中では、表面的なものにするのではなく、追分に親しんでもらう事業や取り組みが大事ではないか、内容も踏まえて考えるべきではないか、町内江差追分関係者と十分議論を尽くしていくべきではないか、といった意見が出されたようです。

議員ご提案、ご提言のように、単に条例制定が目的ではなく、条例制定の主旨、そしてその条例がどのようにまちづくりに生かされていくのか、その議論を積み重ねることが必要不可欠だと考えております。

私の考えと致しましては、江差追分という固有の文化・歴史を子どもも大人もそして、全町民が認識し、唄う・唄わないは別として、江差追分関係者だけでなく、町民全体の誇れる大切な地域資源であることをまちづくりの一環として取り組むべきだと考えております。

江差追分によって、全国から沢山の関係者が来町している、そして、江差追分会館という施設がある、観光振興の面においても重要な役割を果たしており、更なる観光振興を進めるためにも、江差追分の町民の中での認識を、再認識する転換期として、条例の制定を目指したいと考えております。

今後、条例を制定する場合の基本目標や目標達成のための具体的な内容などを整理し、追分関係者をはじめ、役場庁舎内各課とさらに意見交換を実施し、素案作りを行ったうえで議会と協議を進めて参りたいと考えておりますので、ご理解願えればと思います。

「西海谷議員」

議長。

(議長)

はい、「西海谷議員」。

「西海谷議員」

内部でそれぞれ協議を進めているということでございましたけれども。

私はあの、この条例制定に向けた、まずは機運作りも非常に大事ではないかと思っております。関係者は元より、いわゆる内部協議に終わらないで、出来るだけ多くの皆さんに意見を聞いて、町民の方々に条例と一緒に参加して頂く。このような取り組みが江差追分をさらに再認識し、そして理解を深めることに繋がるかと思っております。

それから、条例の時期でありますけれども、私はやはり9月の江差追分全国大会をめざすことが一番、ベストかと思っております。

やはり全国から集まる方々に、条例制定の発表が出来れば、町民は元より、全国

に江差追分に対する江差町の姿勢というものが、大きく発信できる訳でございます。

したがいまして、町民の機運作りと条例の制定の時期につきまして、どのようにお考えかお聞かせください。

(議長)

はい、「追分観光課長」。

「追分観光課長」

町民の機運作りと条例制定時期についてのご質問ですが、まずあの機運作りについては、様々な機会を通じて、追分関係者は元より、追分に携わる町民や団体の皆様からご意見を伺って、町民にとってこんな条例が欲しかったと言われるような、江差町民が誇りを持てるようなものにしていきたいと考えております。

また、条例制定の時期についてですが、9月に開催される江差追分全国大会までにということでございますが、先程申し上げましたとおり、まずは機運作りが大事であって、その条例の中身も大事であります。従って、出来る限り早い時期に、出来る限り早い段階で、その条例の中身について示していきたいと考えておりますので、ご理解をお願いしたいと思います。

なお、その際には、議会の皆様と十分議論をしていく必要がありますので、町長の答弁にもありましたように、その段階には、議会に対して素案を示しながら、進めて参りたいと考えておりますので、宜しく願い申し上げます。

(議長)

はい、「西海谷議員」。

「西海谷議員」

了解致しました。出来るだけ早い段階。それとやっぱり、これは時期、タイムリーというか、それも大事ななと思っております。

そういうことを思いますと、町民にこの条例をいかに示して、この条例を盛り上げるかというそういう時期を図って、取り進めて頂きたいと、このように積極的に取り進めて頂きたいと、このように思っておりますので、宜しく願い致します。

じゃあ、2問目いきます。

(議長)

じゃあ、答弁いいね。

「西海谷議員」

はい。

(議長)

はい、2問目。

「西海谷議員」

じゃあ、2問目。企業型ふるさと納税について、ご質問させていただきます。

これも町政執行の方針で、企業型ふるさと納税の導入については、国の動向を注視しながら検討を行って参りたいと示されておりました。

企業型ふるさと納税、いわゆる地方創生応援税制は4月20日に施行開始となり、既に家具大手のニトリが財政再建を進める夕張市に対し、総額5億円もの寄附を表明するなど、大変注目を集めておるところでございます。

当町として、この企業型ふるさと納税をいかに活用すべく検討を進めているのか、現在の状況をお聞かせ願います。

「町長」

議長。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

西海谷議員の2問目にお答え致します。

地方創生応援税制、いわゆる企業版ふるさと納税につきましては、ご案内のとおり、平成28年度の税制改正において、志のある企業が地方創生を応援する仕組みとして創設されたところでございます。

制度の活用に向けて、本町の取り組みに対するご質問ではありますが、当該制度を活用するためには、いくつかのプロセスを踏むことが必要となります。

1つ目のプロセスは、まち・ひと・しごと創生寄附活用事業の選択を行う必要があること。

2つ目のステップとして、選択した事業をもって、予め企業に相談し、寄附の見込みを立てること。

3つ目のステップとして、地域再生計画に盛り込むこと。

となっておりますが、現在、役場内部にて、活用事業の検討を行っている段階であり、なるべく早い時期に詳細を明らかにし、企業へのアプローチを開始したいと考えております。

いずれに致しましても、企業版ふるさと納税は、地方創生を加速させる有効な手段として位置付け、今後、策定する地域再生計画の中にしっかりと位置付けして参りたいと考えておりますので、ご理解の程、宜しく願い申し上げます。

(議長)

はい、「西海谷議員」。

「西海谷議員」

この企業型ふるさと納税につきましては、それぞれのプロセスを経た上で、取り進めることが当然必要だと思っております。そういう意味もありますけれども、いわゆるこの企業型ふるさと納税につきましては、それぞれ全国の自治体が民間企業にこの取り組みを、いかにアピールしていくか、そして企業がそれにどう協力して頂けるか、このことにかかっていると思っております。

そのためには、当町として、政策面のアイデアと、それから、あれもこれもと、ぼけるようなことではなく、絞った、的を絞った戦略をもった活用事業を積極的に検討すべきだと考えております。

また、町長が言われたとおり、この寄附活用事業が決定した後も、企業に対して積極的にアプローチをしていくことが重要だと考えております。その辺のことにつきまして、お考えを聞かせて頂ければと思っております。

(議長)

はい、「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」

はい。2点のご質問でございます。

まずあの、地方創生の総合戦略につきましては、策定の段階からいよいよ事業推進の段階に入りました。企業版ふるさと納税に関する寄附金活用事業の在り方についてのご質問でございますが、本町の総合戦略に位置付けしております、まず3本の矢というものがございます。

1つは産業基盤を強化して仕事を作る。2つ目は新たな人の流れを作って雇用を創出すること。3つめは若者チャレンジを後押ししながら雇用を創出すると、いったこととなっております。これをキーワードにしながら、プラスアルファ、今、西海谷議員が申し上げた江差らしさ、あるいは魅力あるものをしっかり作り上げていかなければなりません。それが、企業が応援したくなるという様なものに結びつくと思っております。

ただ一方であまりにも大きなプロジェクトを作ると、事業費に企業の寄附金が届かないといった可能性もございます。まずは、賛同する企業をしっかりと捕まえて、その後に地域再生計画の策定をしていくといった流れになります。

また、寄附金の活用事業、できたあと、どうやってアクションを起こすのですか、ということでございますが、まずは、寄附金活用事業の見やすいリーフレットを町の方で作っていきたいと思います。また、町のホームページでも周知していきたいと思います。それらを持ち、もって、町長のトップセールス、あるいは江差町にゆかりのある企業をまずリストアップすると。そして、行動に移していきたいと思っております。

また、地域再生計画が出された後につきましては、内閣府のホームページで全国の各自治体から出された事業がリスト化されて出されます。そこから選ばれるようなものをしっかり作り込まなければ、なかなか企業版ふるさと納税というのは前に進まないというところもありますので、ここは

まずは寄附金活用事業をしっかりと作りこむこと、それをまずしっかりやっていきたいと思いますので、ご理解願いたいと思います。

(議長)

「町長」。

「町長」

私から、いくつか今の質問に補足をさせていただきます。

企業版ふるさと納税ということは、これまで昨年から行っているふるさと納税にも力も入れて、我々行政としては外貨を稼ぐ取り組み、収入を増やす取り組みとして行っております。

ふるさと納税の方は昨年度1,700万程ありました。そのまた別の切り口として、国が進める企業版ふるさと納税にもチャレンジし、少しでも多くまちづくりに寄与する収入を増やすという取り組みを組んでいきたいと考えております。

先程、西海谷議員のご質問の中にありました、夕張市は5億円をニトリから得られるということで、新聞で載っておりました。その夕張市はその5億円を使って、複合施設を建設したいと表明をしております。それはフリーホール、デッキ広場、図書、学童などそういうものを複合した施設を建てたいというような市長のお話でありました。こういう先駆的な取り組みを、しっかり学びながら江差町として私も先頭に立って、江差町に寄与するまちづくりに寄与する財源を確保するための事業、ふるさと納税の導入に向けて、動きを加速させていきたいという風に考えておりますので、ご理解願えればと思います。

(議長)

いいですね。「西海谷議員」。

「西海谷議員」

よろしいですか。

はい。そういうことでこの後も、それぞれそういうプランを作っていくと思っておりますけれども、今現時点の中で、具体的に、江差の地方創生事業として有効だと思われるような的を絞った部分が、もしあるのであればお聞かせ願いたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

(議長)

はい、「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」

今のところ、手持ちの中で有効だというのは基本的にございません。3本の矢の中から全国から選ばれるような事業をこれから作り込むということでご理解願いたいと思います。宜しくお願い致します。

「西海谷議員」

ありがとうございました。

(議長)

以上で、西海谷議員の一般質問を終わります。